

ネットワークアンケート ④8

糖尿病ネットワークを通して

医療スタッフに聞きました

Q. 糖尿病の民間療法について、 どのようなスタンスで指導していますか？

早いもので当紙アンケート調査は12年間で約50テーマが実施されました。今後は過去に実施したテーマを取り上げ、現在と比較する取り組みも行っていきたいと思えます。さて今回は12年前、当紙第1号で行った「糖尿病の民間療法(主治医に指示された以外の治療法)」についてうかがいました。療養環境や治療技術は大きく様変わりしましたが、療養生活に対する患者さんの意識は変化しているのでしょうか。

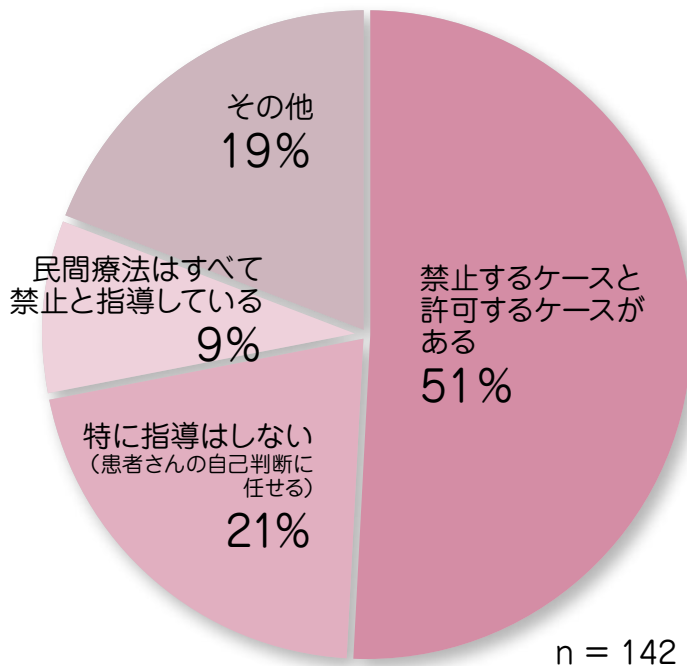
[回答数：医療スタッフ142名(医師17、看護師51、管理栄養士36、薬剤師24、臨床検査技師9、その他5。うち日本糖尿病療養指導士40、糖尿病看護認定看護師9)、患者さんやその家族424名(病態/1型糖尿病151、2型糖尿病253、糖尿病境界型12、その他8、治療内容/食事療法300、運動療法258、経口薬215、注射薬20、インスリン療法209/重複回答有)]

民間療法の指導はケースバイケースという回答が最も多く51%で、12年前(56%)と大きくは変わっていませんでした。しかし、患者さんの民間療法利用率は12年前とどう変わったかについて、「増えている」が最も多く66%に上り、「変わらない」が28%、「減っている」が6%との実感でした。

そこで民間療法についてどのように考えているかを聞いたところ「信用するしないは関係なく、医療従事者として情報は知っておくべき」が72%を占め、全く関心のない人は11%と、肯定的に受け止め、ケースバイ

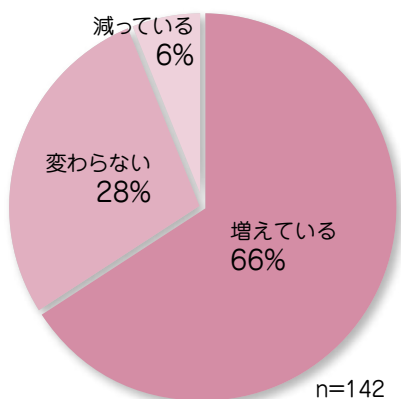
ケースで対応している現状が浮かび上がりました。

自由記述では、「患者にとってその民間療法が治療に向かうためのモチベーションに繋がるのであれば、明らかに有害でなければ禁止しなくてもよいと思う」、「患者さんが相談しやすい環境作りが必要」、「正しい知識を伝えることが民間療法を駆逐する最強の方法」、「糖質制限も民間療法のひとつだと思っている人

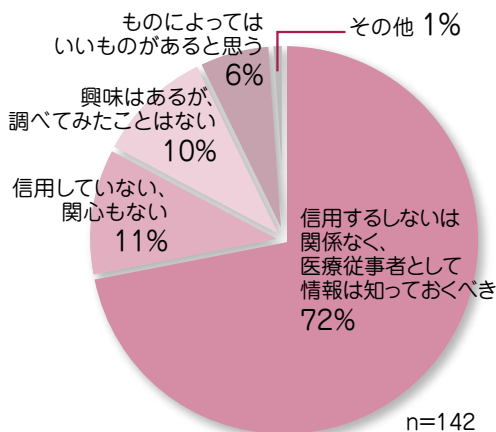


がたくさんいるのが残念」、「糖尿病に良いと信じて飲んだり食べたりしている患者さんの気持ちを踏みにじるのは許せない」など、多くの意見が寄せられました。

Q. 12年前と比べ民間療法の利用はどう変わったと思いますか？



Q. 民間療法について、どのように感じになりますか？



危険だと思ったもの

- ・テレビでチョコを食べれば血糖値が下がると言っていた
- ・“あずきで血糖値を下げよう”という雑誌の特集
- ・「血糖値が下がる」と、よく分からない電気が流れる椅子に毎日1時間座っている人がいた
- ・インスリンを中止して酵素を使っていた人がいた
- ・中国からの直輸入で使用した漢方(糖尿病薬)の使用で心筋梗塞を起こした人がいた
- ・インスリン治療中なのに炭水化物を一切食べない
- ・サプリメントの飲みすぎ。1日10種類以上飲んでいる人がいた
- ・山籠もりして断食
- ・治ると評判の泉で水を飲んで飲む(煮沸せず)